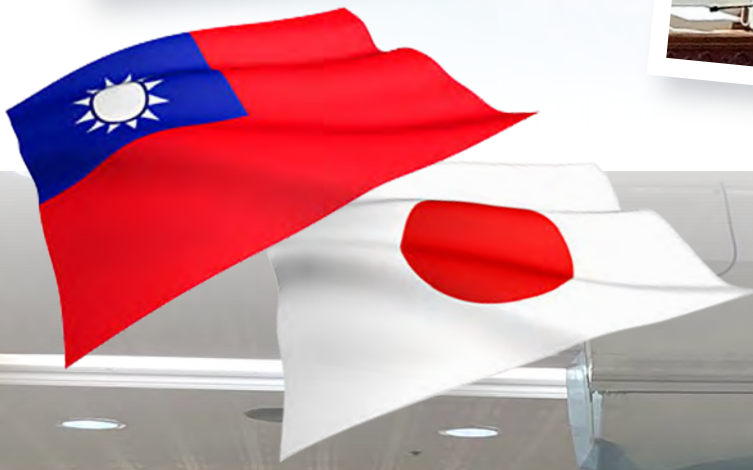




# 台湾視察報告書

2023.8.22~8.25

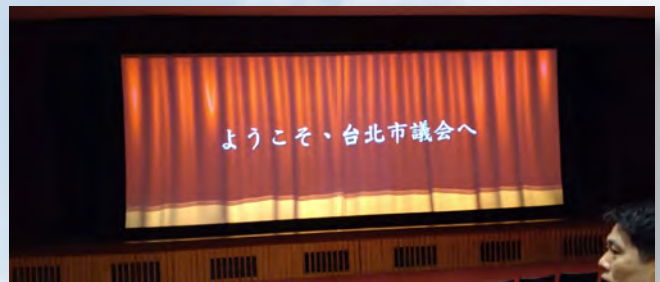


浜松市議会自由民主党浜松

自由民主党浜松

# 台湾視察報告書 目次

- 1 視察行程表
- 2 訪台視察団名簿
- 3 はじめに
- 4 友好交流協定書
- 5 視察報告
- 29 おわりに



## 視察行程表

日付 曜日	午前 午後	渡航先国・地域 訪問地名	使用交通 機関	日程の概要 訪問予定先名称等	宿泊先
8/22 (火)	午前	台湾 台北市	CI151 9:55 12:05 専用車	中部セントレア空港発 台北松山空港着 日本台湾交流協会訪問 榕錦時光服務中心視察	台北老爺大酒店 台北市中山北路二段 37-1 号
8/23 (水)	午前 午後	台湾 台北市	専用車	台北市議会・行政機関訪問 財団法人資訊工業策進会 訪問 Living Lab+視察	同上
8/24 (木)	午前 午後	台湾 南投県	高速鉄道 専用車	新光三越百貨股份有限公司 商品部訪問 台北発-台中着 南投県行政機関訪問 日月潭訪問	日月潭大飯店 南投県魚池郷水社村中山路 419 号
8/25 (金)	午前 午後	台湾 台北市	専用車 CI150 17:10 21:05	国家風景区管理处 向山ビジターセンター訪問  台北松山空港発 中部セントレア空港着	

日付 曜日	午前 午後	渡航先国・地域 訪問地名	使用交通 機関	日程の概要 訪問予定先名称等	宿泊先
8/23 (水)	午前	台湾 台北市	CI151 9:55 12:05 専用車	中部セントレア空港発 台北松山空港着 財団法人資訊工業策進会 訪問 Living Lab+視察	台北老爺大酒店 台北市中山北路二段 37-1 号
8/24 (木)	午前 午後	台湾 南投県	高速鉄道 専用車	新光三越百貨股份有限公司 商品部訪問 台北発-台中着 南投県行政機関訪問 日月潭訪問	日月潭大飯店 南投県魚池郷水社村中山路 419 号
8/25 (金)	午前 午後	台湾 台北市	専用車 CI150 17:10 21:05	国家風景区管理处 向山ビジターセンター訪問  台北松山空港発 中部セントレア空港着	

# 令和5年度 自由民主党浜松 訪台視察団

	議長職・会派役職 / 所属委員会・公職	期数・年齢
1	第83代議長（現任） 第86代副議長	 <b>とだ まさと</b> 北区引佐町柳窪 当選4回 58歳
	環境経済委員会 地方創生特別委員会	
2	会派会長（視察団団長） 第84代副議長	 <b>とすい たかひこ</b> 中区佐藤二丁目 当選5回 71歳
	議会運営委員会 委員長 厚生保健委員会 危機管理・交通政策特別委員会 浜松市職員懲戒審査	
3	会派副会長	 <b>かも しげあき</b> 北区細江町気賀 当選3回 56歳
	議会運営委員会 副委員長 市民文教委員会 大都市制度・行財政改革特別委員会 議会改革検討会議 委員長	
4	会派幹事長	 <b>いなば だいすけ</b> 西区船山寺町(事務所) 当選3回 49歳
	議会運営委員会 厚生保健委員会 地方創生特別委員会 委員長 議会改革検討会議	
5	環境経済委員会 委員長	 <b>つくもり えいこ</b> 南区鶴見町 当選2回 59歳
	議会運営委員会 大都市制度・行財政改革特別委員会 社会福祉審議会	
6	顧問 第63・64・79代議長	 <b>やながわ しろう</b> 南区三島町 当選10回 72歳
	建設消防委員会 大型公共施設建設特別委員会	
7	第76代議長 第78代副議長	 <b>はない かずお</b> 東区大瀬町 当選6回 63歳
	市民文教委員会 地方創生特別委員会 浜名湖競艇企業団議会議長 (全国議会議長)	

※現議長の戸田は、浜松市長と別の公務日程に同行するため、  
当地の視察には帯同いたしません。

	議長職・会派役職 / 所属委員会・公職	期数・年齢
8	第77代議長 第80代副議長	 <b>あつみ まさと</b> 天竜区両島 当選6回 69歳
	建設消防委員会 危機管理・交通政策特別委員会	
9	市民文教委員会 副委員長	 <b>いわた ひろかず</b> 中区曳馬五丁目 当選2回 61歳
	危機管理・交通政策特別委員会 議会改革検討会議 浜名湖競艇企業団議会議長	
10	厚生保健委員会 副委員長	 <b>おの たかひろ</b> 南区高塚町 当選2回 54歳
	大都市制度・行財政改革特別委員会 議会改革検討会議 都市計画審議会	
11	環境経済委員会 副委員長	 <b>かんま いくこ</b> 北区新都田二丁目 当選2回 52歳
	地方創生特別委員会 議会改革検討会議 浜名湖競艇企業団議会議長	
12	建設消防委員会 危機管理・交通政策特別委員会 都市計画審議会	 <b>ふじた のりあき</b> 中区鴨江一丁目 当選1回 42歳
13	市民文教委員会 地方創生調査特別委員会 浜名学園組合議会議長	 <b>すずき ひろゆき</b> 東区大瀬町 当選1回 39歳

## はじめに

10年前の2013年、ビジットジャパンキャンペーンの成果により、訪日観光客数が伸びる中、台湾からの来訪者のさらなる拡大と、浜松市への誘客を目的とし、浜松市議会は鈴木康友市長と太田康隆議長のもと、14名の議員団と観光誘客にむけた観光関連団体、企業13名ほかで訪問団を組み、7月31日に本市と台北市は、「観光交流都市協定」を締結した。

続いて、協定締結から5年目となる2018年には、台北市に留まらず他地域からの観光交流の拡大を目指し、台湾3大観光地として名高い日月潭が位置し、遊覧船やロープウェイ、サイクリングなど浜名湖と親和性の高い南投県観光産業連盟協会と、浜名湖観光圏整備推進協議会(協議会会長は市長)が、友好交流包括協定を締結した。サイクリングイベントへの相互出展や参加などの交流が始まった。

しかしながら、2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の影響により、3年以上にわたり交流事業は停止されており、コロナ禍の収束に伴い、新たな関係づくりや交流の促進が期待されている。

観光交流都市協定から、10年の節目となる本年は、中野祐介新市長となり、台北市も2022年11月に蔣萬安氏が新市長へ、戸田議長とともに、台北市を訪問することとなり、交流事業の再開やさらなる連携強化が期待される。

一方で、世界ではロシアのウクライナ侵攻による戦火が長期化の様相を呈し、中東湾岸地域のイスラエルではハマスのテロ行為によるガザ地区での混乱が続き、諸外国の動向に注視が必要となっている。これらは対岸の火事ではなく、中国の動きや北朝鮮のミサイル発射など、台湾や日本を取り巻く状況も楽観できない。

台湾に対する我が国の外交対応は、中国、アメリカとのバランスをとりつつ、極めてセンシティブな関係ともいえるが、地方自治や民間企業の進出をはじめとした友好交流が、緊張感を緩和できる大きな要素なることは極めて意義深いものと言える。

本市としては、台北市との友好交流協定の拡大、南投県との交流再開にとどまらず、さまざまな地域や自治体、企業や団体とも対話と深め、議会としても視察や意見交換を行い、交流の一層の推進を後押しするものである。今回の訪台と新たな調印締結により、本市と台北市、南投県、さらには日本と台湾の友情と信頼関係の強化に繋がるものとしたい。

幹事長 稲葉 大輔

## 浜松市と台北市 友好交流協定書

浜松市と台北市は、交流促進による相互の発展を目指すため、以下の項目について合意し、本協定書を締結する。

- 一、多方面にわたる友好交流と協力を通じ、両市の発展と繁栄を図る。
- 二、市民の相互誘客促進につながる観光広報活動等を実施する。
- 三、青少年の交流への参加を促進するため、音楽、スポーツ、教育などにおける交流機会を提供することに努める。
- 四、一般企業や経済団体、産業等の交流を促進する。
- 五、本協定書は調印当日より効力を生じ、有効期間を5年とする。有効期間満了時、双方から終了の申し出がない限り、自動的に更新する。
- 六、本協定書は、正本1式2部を日本語と中国語で作成し、日本語と中国語は同等の効力を有する。
- 七、具体的な交流計画は、双方、平等と互惠の原則に基づき、別途定めるものとする。

2023年8月23日

浜松市

中野 祐介

市長 中野祐介

台北市

蔣萬安

市長 蔣萬安

# 自由民主党浜松 台湾視察

訪台視察団 鳥井 徳孝 加茂 俊武 稲葉 大輔 露木里江子 柳川樹一郎  
花井 和夫 渥美 誠 井田 博康 小野田康弘 神間 郁子  
藤田 典良 鈴木 裕之

■日 時■ 2023年8月22日(火) 15:00~15:45

■訪問先■ 公益財団法人日本台湾交流協会 担当 岡島 副代表

コロナ禍から改めて動き出した世界において、外交的な脅威が心配され、日本においても重要なパートナーとなる台湾における、政治・経済・社会の現状について説明を受ける。

2023年8月22日(火)に台北市の中心部にある(公財)日本台湾交流協会台北事務所を訪問し、台湾の現状について説明を受けた。



1972年の日本と中国の国交正常化により、日本と台湾との外交関係が閉ざされた。日本台湾交流協会は、一つの中国に配慮しつつ日本と台湾との関係を維持するために政府の外交機関としてではなく、民間の機関としてそれまで築かれてきた両国の経済や学術・文化交流など様々な関係を維持継続するため外務省及び経済産業省の認可により財団法人として発足し、東京に本部を

置き、台湾に台北事務所、高雄事務所が置かれた。日本政府との緊密な連携により、外交関係の無い台湾との間の実務関係を処理するための各種業務を行っている。

また、台北事務所及び高雄事務所では、邦人保護やビザの発給、経済・文化交流、様々な調整及び調査事業など日本の在外公館が行う業務に類する事業を行っており、実質的な日本大使館・領事館としての機能を果たしている。

歴代の会長は経済界から選出されており、台北事務所長には外務省の大使経験者が就いている。同様に日本国内では台湾の日本における外交の窓口機関として台北駐日経済文化代表処があり横浜、大阪、福岡、那覇、札幌に分処を設置し各種事業を行っており、浜松市は横浜分処の所管となる。

日本台湾交流協会台北事務所の岡島洋之副代表より「最近の日台関係及び台湾情勢」について話を伺った。



日本台湾交流協会台北事務所が入るビル

## 1. 「日台関係」について

コロナ禍による水際措置が大幅に緩和された2022年秋以降に再び交流が盛んとなっており、今年6月に台湾の副首相にあたる鄭文燦行政院副委員長が来日し日本政府要人と面談するなど、来年1月に迫った台湾総統選挙候補者の来日も続いている。また、日本から7月に台湾で未だ大きな人気がある故安倍総理の安倍昭恵夫人が訪問し注目を浴びた。

8月には麻生自民党副総裁が訪問し、台湾海峡の平和と安定は我国だけでなく国際社会の安定にとって重要であり、中国を念頭に「戦う覚悟」が抑止力となると演説したことが大きく報じられた。総理大臣を経験した自民党の現職副総裁が台湾を訪問するのは初めてであり台湾で大きく注目された。

## 2. 「台湾の内政」について

来年1月の総統選挙に向けて、3 選禁止のために立候補できない蔡英文総統の与党である民主進歩党(民進党)から同党主席で副総統の頼清徳氏が、8 年ぶりに政権奪還を目指す最大野党の中国国民党(国民党)からは新北市長の侯友宜氏が、第3党の台湾民衆党(民衆党)からは前台北市長の柯文哲主席がそれぞれ候補として名乗りを上げ、実質の三つ巴の選挙戦が始まっている。また、鴻海精密工業前会長の郭台銘氏が立候補を検討しており、野党の分裂が危惧される中、与党が有利な状況にあり、頼氏が支持率でリードしており、政党支持率でも民進党がリードしている。

主な争点として、中国への対応に関心が高く、有権者の8割以上が現時点で独立や統一を望んでいないとの世論調査の結果がある。4氏とも現状維持の必要性を訴えてはいるが、頼氏は「一



つの中国」を認めず、中国の圧力に屈しない姿勢を示す一方、他の3氏は中国との融和に意欲を見せている。日本やアメリカとの関係にも注目する必要がある。

### 3. 「対外関係」について

昨年8月のアメリカ下院議長のペロシ氏の訪台以降、イギリスやドイツ、イタリアなど欧米各国からの要人の訪台が増えており台湾支持の動きが増している。

しかし、ホンジュラスが中国との国交樹立のため台湾との断交を決定するなど中国の外交圧力を背景に蔡英文政権下の7年間で9ヶ国と断交するに至り、国交が残る国は大洋州の4ヶ国、欧州の1ヶ国、中南米・カリブの7ヶ国、アフリカの1ヶ国と厳しくなっている。

	2008	2012	2016	2023.6
台湾人	48.4%	54.3%	58.2%	62.8%
中国人※	47.1%	42.1%	37.6%	33.0%

※「自らは中国人である」との回答と「自らは台湾人でもあり、中国人でもある」との回答の合計

速やかに独立すべき	4.5%	25.9%
どちらかと言えば独立支持	21.4%	
永遠に現状維持すべき	32.1%	60.7%
現状維持後に決めるべき	28.6%	
どちらかと言えば統一支持	5.8%	7.4%
速やかに統一すべき	1.6%	

(出典)台湾政治大学選挙研究センター

### 4. 「兩岸関係」について

台湾海峡兩岸関係を指し、中国は台湾の独立とアメリカ等の外部勢力の干渉に対し断固反対を示し軍事的圧力をかけるとともに、「一つの中国」の主張の下で一國二制度(台湾モデル)による統一を目指し台湾の野党や経済界等を積極的に中国へ招待するなど総統選挙もあり、融和姿勢を示し平和統一を推進している。

台湾は、中国による隷属関係には無く「一國二制度(台湾モデル)」は受け入れ難く、現在の自由民主体制を堅持し台湾海峡の平和と安定の現状を維持していくとの見解を示している。台湾の世論調査においても現状維持が60.7%を占め、独立支持は25.9%となっており、中国人としてよりも台湾人としての自覚が強い。

台湾海峡での有事は、2万人を超える在台湾の日本人及び多くの日本企業への影響が大きい。日本国内でのエネルギー危機を招きかねないとされる。日米間においても台湾海峡の平和と安定の重要性を確認している。



日本台湾交流協会台北事務所の岡島洋之副代表

## 5. 「最近の米台軍事関係」について

昨年成立した国防予算に関わる米国権限法において台湾の武器調達等を支援するため5年間で最大100億米ドルの軍事援助を承認し、台湾に対してNATO 非加盟国の主要同盟国と同等の待遇を与え米国から優先的に軍事物資を取得できるよう規定、2024年の多国間海上演習「リムパック」に台湾を招くよう求めた。また、米軍の台湾派遣隊員の増強や台湾への武器売却の強化を進めている。

## 6. 「経済」について

コロナ禍で厳しい状況が続いており、今年の一四半期の実質 GDP 成長率は前年同期比マイナス2.87%となっており、内需に頼る状況が続いており外需による輸出の回復が遅れており景気回復が遅くなる見込みが示されている。



## 7. 「CPTPP」について

環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定であり、オーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、日本、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、米国及びベトナムの合計 12 か国による経済連携協定として締結されたが米国が脱退したことにより、11か国により署名した TPP 協定である。台湾も2021年に加入申請を行ったが、中国も妨害するため同様に加入申請を行っている。

台湾としては、経済的価値以外に台湾の対中経済依存の相対化や経済的な中国包囲網など戦略的意義を重視し加入を最重要課題として位置付けている。今年7月に英国の加入が正式に承認をされており、次のステップとして中国と台湾の加入をどうするか、正式な国家ではない地域の加盟が初めてとなるためワーキング・グループを設置し協議している。

## 8. 「その他」

- ・武器調達に関し米国の協力を受けながら台湾独自のミサイル開発計画や中国内のミサイル発射基地を攻撃する無人機(ドローン)の開発を進めている。
- ・徴兵制度について、中国の軍事的圧力の強まりにより 18 歳以上の男子に義務づけられる兵役期間を現在の 4 か月間から 1 年間に延長することを決めた。過去には 2 年間または 3 年間の徴兵制が敷かれていたが、2008 年からは 1 年間となり、徴兵制から志願兵制への移行も進められたことにより、2018 年を最後に、1 年間の兵役に服する義務のある人はいなくなり、4 か月

間の軍事訓練が義務づけられるだけとなっていた。ロシアのウクライナ侵攻が徴兵制度の改正機運を大きく高めた。

・台湾で有事の際の避難場所となるシェルターは、駅や競技場などの公共施設、建築法令により指定の人口密集地にある6階建て以上のマンション・商業ビルなどにシェルター等の防空避難設備の設置が義務づけられている。天井高や防火扉の強度など建物の構造による法規定もある。シェルターは空襲を一時的にしのご防空避難施設であり、食料の備蓄や冷暖房等はなく長期間の避難生活は想定していない。シェルターは1人当たり3.8ヶ所あり、スマホのアプリでシェルターの場所の確認ができる。中国の武力行使を想定した軍事演習に合わせ国民の防空避難訓練も台湾全土で大規模に行われており、有事に対する市民の危機意識は大変高いと感じる。

## 【所感】

台湾と日本の交流の歴史は古く、地政学的において日本にとり台湾は中東や東南アジアを結ぶ上で重要な位置にあり、台湾海峡での中国との有事が即日本の経済や安全保障に大きく影響を与えることとなる。また、文化・芸術や科学技術などの幅広い交流があり、民間交流も盛んである。

地方自治体として海外の諸都市と交流することは、地域経済の活性化のみならず両国市民の間の信頼関係をより一層深めることとなり、紛争や関係悪化により国家間の交流が停滞する場合において国の外交を補完する上でも大変有意義である。

2021年度の台湾における対日世論調査では、「最も好きな国」の第一位は日本となっており、60%で過去最高となり、第二位の中国を大きく離している。「最も親しくすべき国」においても日本と答えた方が46%と第一位となっている。

今回の台北市と浜松市の観光交流協定が締結10周年を迎え、友好交流協定として観光のみならずスポーツや文化、産業など更に幅広い交流に繋げることは大事なことであり、台湾と日本、台北市と浜松市の関係強化を大きく期待したい。



■日 時■ 2023年8月22日(火) 16:00~17:00

■視察先■

榕錦時光生活園區 (ロンジン シーグァン ションフォエンチュウ)

榕錦時光服務中心(サービスセンター) 台北市政府文化局「老房子文化運動」について

担当者:胡毓雯 博士(女性)



### 【目的】

官民連携による歴史的建造物の活用事例を視察し、サステナブルなまちづくりを学ぶことで、リノベーションまちづくり事業や中心市街地の活性化など本市政策の検証および提言のための調査研究を行う。

### 【概要】

榕錦時光生活園區は、日本統治時代に福住町と錦町という2つの町があったこの地に建設された台北刑務所施設の一部をリノベーションし生まれ変わった施設である。



台北刑務所は1896年に設立された「台北監獄署」が1904年に移設され、日本統治時代、日本人近代建築家の山下啓二郎氏が設計し、当時の最新式のペンシルバニア式で建設された、当時の台湾最大の近代建築物の一つであった。

山下氏と並び、当施設に紹介されている日本人は、台湾刑務所の6代目所長（任期1907年～1931年）志豆機源太郎氏。1873年に日本で生まれ、65歳の時に台北市で亡くなった。

台北監獄制度の改善を推進した志豆機は、獄中教育や受刑者の脚気予防のため食事に配慮し、予防医学の考え方も刑務所に導入し衛生と健康習慣の改善に取り組み、また受刑者に専門技術を学習させ、受刑者たちが刑務所で作成した製品を日本で販売して出所後の社会復帰のための資金とする、労働賃金システムを整備した。

台北刑務所は1963年に移設されるまで使用され、その後1994年に取り壊しの危機にあったが、刑務所跡地を保護するための活動が始まり、2013年3月には、台北刑務所跡地を文化遺産に指定・登録し、保護するためのNPO法人が立ち上がる。また施設だけでなく、地区内の古木を守るための活動も始まった。その後、台北市文化資産審議委員会によって、刑務所南側の壁と7棟の刑務所宿舍、また当時の姿を残している入浴場とすぐそばにあるクスノキ、マンゴー、ツバキ、ガジュマルなどの樹木が文化遺産に指定・登録し、保護されることが決まった。

台北市文化局は歴史建築物を保存・活用し、新たに文化的な空間を創出する事を目標とした「老房子文化運動 2.0」（古民家文化運動）を実施。民間企業の資金や経営力を活かしたリノベーション事業の一環により、3年間で2億台湾元（約9.2億円）の資金をかけて、新たな商業交流空間として2022年に榕錦時光生活園區として生まれ変わった。

台湾には親日派が多く、榕錦時光には、コスプレ、着物体験など日本の文化にふれる店舗が多く存在し、人気観光スポットとして、注目されている。

修復当初は、見栄えを重視してステップ用の石を多く配置したが、バリアフリーの観点から石をなくしてフローリングにするなど車椅子の方が通れるように変更した。また、ガジュマルは生命力が強いため根も大きく成長する。そのため、根に引っかかって訪問者が転倒の



恐れがあり、通行人の邪魔にならないように根を除去している。この根を切る技術は日本の技術を取り入れている。

今後はバリアフリーな観点から難聴や盲目の方なども利用できる施設の建設を検討中。背景としては、台湾も日本同様に高齢化社会を迎えていることがある。そのため、誰もが健康的な生活を送り、幸福を満たすといったレクリエーションとしての場も果たすなど、ヘルスケアの視点で施設を發展させてきた経緯がある。今後も街の發展とヘルスケアシステムの向上を目的に、レクリエーションパークやヘルスケアパーク、リビングパークの拡大建設を進めていく予定。「老房子文化運動 2.0」の推進を通じて子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活することができる憩いの場となることを目指している。



## 【意見交換 要旨】

Q:日本の建造物を残すことについて、国民の感情や台湾の歴史教育的な観点からどのようにとらえられているか。

A:日本統治当時の建物を含め、歴史的建造物の保存は教育の観点からも有益と考えている。

Q:古い建物を残しリノベするにあたり、反対運動などなかったのか。スムーズに計画が進んだのか。

A:台湾は国土面積が狭いため、マンションが多く、人口密度が高くなっている。古い建物を残したりリノベーションに対しても賛否両論で、取り壊した方がいいと言う人もいれば残した方が良いという人もあった。

Q:木材の調達はどう?浜松の天竜材をPR、活用を提案。

A:台湾は森林伐採が禁止されており、建材の調達は海外から輸入により調達している。建築については伝統工法を優先というより、新しい技術との融合の推進、例えば今回の建物では瓦はスペインのものを取り入れている。

少子高齢化のため、大工などの技術継承が課題。そのため大学の教育現場では職人の様子をビデオにとって活用するなどして、技術を伝承している。またこの建物は重要文化財に指定されているため、都合の良いところにクーラーをつけることはできず、別の位置に設置しなければならないなど制約がある。



## 【所感】

2002年に台湾政府の発展計画の一つとして文化創意産業「文創」の推進が始まり、一大ムーブメントになっている。この「文創」の対象範囲は広く、アート・音楽・映画・建築・広告・出版など多岐に及び、これらが組み合わさって建築からグッズまで、企業から個人まで、多様な規模・形で新たな文化が発信されている。国のこうした政策の上に推進されている「老房子文化運動」。台湾の人々は、歴史や伝統を非常に重んじる点で、日本とのレベルの違いを感じた。

リノベーションで整えられた建物には、MIT (Made In Taiwan) のおしゃれな店舗が並び、日本式のワッフル、日本の和菓子店、日本式のお弁当、日本式の餃子居酒屋、浴衣の着付け体験など日本を感じられる多種多様な店舗もテナントとして入居しており、訪れた観光客が台湾・日本両方の文化を堪能できる工夫が点在している。自国のオリジナル商品を魅力的に発信し、同時に日本文化も融合されている店舗は、まさに「映える、おしゃれな店や商品」となり、老若男女人気のスポットになっ

ていた。本市も「おしゃれに映える」視点をもっと前面に押し出すブランディングが必要だと強く感じた。キーワードはやはり若者・女性ではないだろうか。リノベーションにかかわる人材を増やし、柔軟に対応する行政の存在も欠かせない。

今回のテナントに、ヘルスケアサービスが入っていることに目を引いた。看護師が常駐し、健常者～疾患を罹患している幅広い方々に対して、健康予防サービスやケアサービス等を提供していた。世界に先駆けて超高齢社会を迎えた日本。またウェルネスを推進する本市でもヘルスケアサービスを街づくりの中に「おしゃれに」融合させていく取り組みが必要である。

今回の視察により、中心市街地のリノベーションには、自国と浜松への愛着のある人材と「映える」センスが重要要素だと強く感じた。また、一部の人の満足となるのではなく、市民満足度 Well Being に貢献できるような、視点も必要となってくる。今回の視察を参考にして、引き続き中心市街地の活性化についての政策提言を行っていきたい。





■日 時■ 2023年8月23日(水) 10:00~12:00

■訪問先■ 台北市政府 市庁舎 台北市議会議会棟

中野祐介浜松市長、蔣萬安(しょうばんあん)台北市長の両市長は10時から会談、10時30分からの共同記者会見に同席。

### 【概要】

浜松市と台北市が2013年に観光交流都市協定を締結し、節目の10周年となる事から、協定内容を一部見直し、名称を友好交流協定とし、更新合意した協定書に中野祐介浜松市長、蔣萬安(しょうばんあん)台北市長が署名した。引き続き、5年毎の自動更新となるが、台湾からの来訪者限定の宿泊キャンペーン、浜名湖花博20周年記念事業への出展勧奨、台北市ランタンフェスティバルへの出展検討などが発表された。

中野市長は、浜松市がこれまでも、中学生の音楽、野球等、様々な交流を行ってきた話からはじまり、自動車メーカー、大手楽器メーカーの発祥地でもあり、音楽の都としてPRしつつ、文化、教養、産業を高めるために、今後の更なる台北市との連携、協力を深化していくと熱い思いを伝えた。

相互誘客促進キャンペーンとして、浜松市からはミニハーモニカ、きんちゃく5種飴(お茶、イチゴ、ミカン、わさび、ソーダ)、静岡緑茶(夢するが)、浜名湖パンフレットを用意する。一方、台北市からはイラストラーバッグ、貯金箱(ウサギの親子)、1日交通遊覧券、台北市観光マップがプレゼントされるとの説明があった。

記者会見には、多くのメディアが詰めかけており、協定書調印式及び記者会見場に、戸田議長と同席し、会場に詰め掛けた関係者やその熱気を肌で感じ、今後の両市の交流活性化が大きく期待されるものであった。



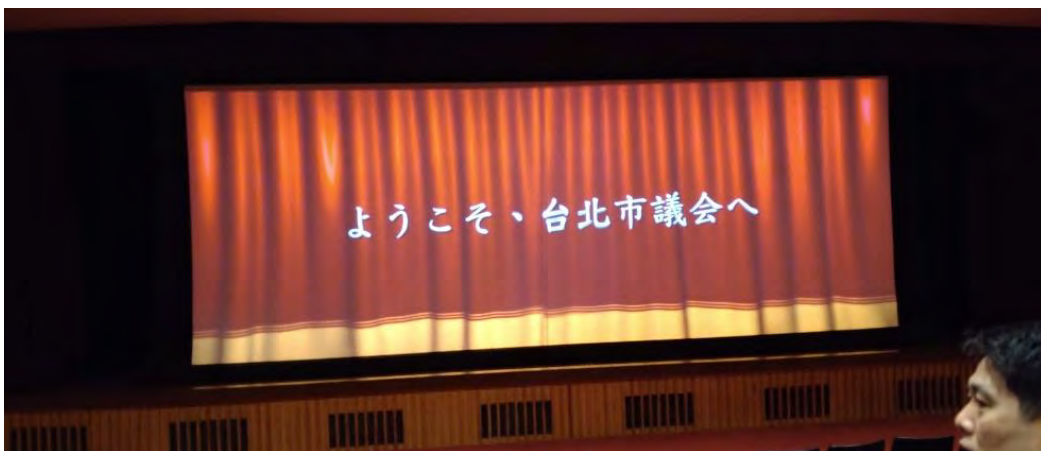
調印式会場

・台北市議会では、陳炳甫市議会議員、議会事務局（洪樹林秘書長、陳慶安副秘書長、王天勇主任）から歓迎の挨拶を受け、陳炳甫市議会議員は、日本の大学に留学した経験から、流暢な日本語を話された。

台北市概況要覧には、2023年人口248万8043人とあり、台北市議会冊子では、台北市は12の行政区があり、選挙区は8区議員61人で構成するが、女性議員が29人を占める。シアタールームでは、日本語で台北市議会の歴史、7つの常設委員会や2つの特設委員会の活動状況、全議員の発言場面などの議会活動を説明する動画が用意されており、情報発信により理解を深め、関心を高めていく手段として大変参考になった。



調印式



シアタールーム



台北市議会議場



※台北市長は蒋介石ひ孫の蔣萬安氏 史上最年少、将来の総統候補とされる  
 対中政策については、台湾に一国二制度の受け入れを迫った中国の習近平国家主席に対し、呼びかけを拒否して、台湾の自由と民主主義を尊重するよう求めた蔡英文総統の主張に賛同する考えを示している。

■日 時■2023年8月23日(水)15:00~17:00

■視察先■財団法人資訊工業策進会

(Institute for Information Industry 通称:III(トリプルアイ)) Living Lab +

### 【目的】

台湾におけるデジタル経済の発展、デジタルトランスフォーメーション((DXDX)の補佐役として、人材育成をはじめ、研究開発など産業ニーズに合致するソリューション提案など、行政および産業のデジタルトランスフォーメーションを推進している資策会の取り組みについて学び、日本の各自治体との連携の状況や今度の取り組みについて調査する。

また、Living Lab+では、コンテンツインタラクティブテクノロジー、スマートスポーツとフィットネス、サービスロボット、およびスマート自動販売機、スマート看板、インテリジェントなデータ管理と分析などの商業ビルのデモンストレーションのための革新的なサービスデモンストレーションフィールドを視察し、台湾におけるスタートアップの技術マッチングや企業の連携の現場から、今後のスタートアップ支援や技術革新、課題解決に関する手法について調査研究する。

### 【概要】

財団法人資訊工業策進会、通称:III(トリプルアイ)は、1979年に台湾政府と民間が共同で「情報技術応用の普及、国家全体の競争力向上、情報工業発展環境と条件の形成」を目的として創設された。台湾のデジタル経済発展を牽引すべく「デジタルトランスフォーメーションの水先案内人」とし人材育成・研究開発等を通じて台湾政府と産業のデジタルトランスフォーメーションを促進し情報技術(IT)と情報産業の研究と発展、及びデジタルイノベーションを支援する非営利の研究機関である。

III(トリプルアイ)の研究と開発は、新技術の研究開発や革新的なプロジェクトの推進を行い、産業と政府に対して情報技術の専門知識を提供している。具体的な分野には、クラウドコンピューティング、人工知能(AI)、セキュリティ、ビッグデータ、IoT(Internet of Things)などが含まれている。

台湾政府はこの強みを活かすべく、IOT 産業の発展に注力し、今後 IOT 産業が台湾経済を牽引することを目標として掲げている。



ここで重要なのがベンチャー企業の存在である。大手台湾企業のハードウェア製造能力と、ベンチャー企業のアイデアで生まれたソフトウェアを組み合わせ、IOT を発展することを目的としており、台湾政府は資金面だけでなく、民間の専門家をベンチャー企業に派遣し、大手企業との事業連携も支援している。

「Living Lab +」は、台湾の「Institute for Information Industry (III)」が推進しているイノベーションエコシステムの一部で、実際の生活環境で新しい技術やサービスをテストし、開発するためのプラットフォームである。

Living Lab +は、実際の生活環境での試験と実証実験を通じて、新しい技術やサービスの開発、改善、評価を支援している。

これにより、実用的な解決策や革新的なアプリケーションを生み出し、市場に導入される可能性を高めている。そして、産業界、アカデミア、政府機関などさまざまなステークホルダーと連携し、協力プロジェクトを実施し、これにより、実世界の問題に対処し、市場ニーズに合致するイノベーションを促進している。

また Living Lab +は、さまざまな分野にわたるテクノロジーとアプリケーションに焦点を当て、例えば、スマートシティのソリューション、ヘルスケアテクノロジー、エネルギー効率の向上、教育関連の技術などが含まれている。リアルワールドの環境での実証実験では、台湾のさまざまな場所で実際のユーザーと共同でテクノロジーの試験と実証実験を行っている。これにより、技術の実際の利用状況やユーザーの反応を評価し、良の余地を見つけている。

Living Lab +は、台湾のイノベーションと技術開発において重要なプラットフォームであり、実世界の課題に対処するためのソリューションを提供する役割を果たしている。



## 【所感】

財団法人資訊工業策進会、III(トリプルアイ)では、玄関において各自のスマートフォンでのAR体験での歓迎を受けた。1階にある卵等のイノベーション自販機は市民誰でも利用ができる。14階建てのビル、Living Lab +は政府所有でIII(トリプルアイ)が運営管理を行っている。

台湾古都の風景絵画の没入型インタラクティブプロジェクション、レーザープリンターやバーチャルスタジオなどを見学・体験した。没入型インタラクティブプロジェクションは、独自開発のアルゴリズムを使用して細部まで再現し高品質の三面のLEDパネルに投影するもので、絵画の中の街を進んで歩いているように感じるものであり、アートや観光、高齢者や障害者の方の利用など様々な活用ができると感じた。AIによる自動翻訳画面により、会話も体験した。浜松市でも戦争のAIを活用した語り部も、ITベンチャー企業の技術で実現しており、これからAIが人材不足も補ってゆくことを実感した。

イノベーションのプラットフォームである点では、浜松市のザザシティ中央館地下一階にある「FUSE」(浜松磐田信用金庫)と同じような役割を持つ施設であるが、III(トリプルアイ)は半官半民で設立された組織であり、台湾政府のシンクタンクとして国家プロジェクトも行っているなどスケールは大きいものであった。

太陽光発電や蓄電池を利用したバス停の案内表示は、ナイトビジョン フロントライト技術も用い、屋外用液晶ディスプレイと比較すると消費電力は1%未満であり、設置に電源が必要ないので、郊外においても設置が容易である。さらにクラウドバス停時刻表管理システム、マルチメディア管理システムなども実証実験も済んでおり、電源が必要なく、大変便利である。

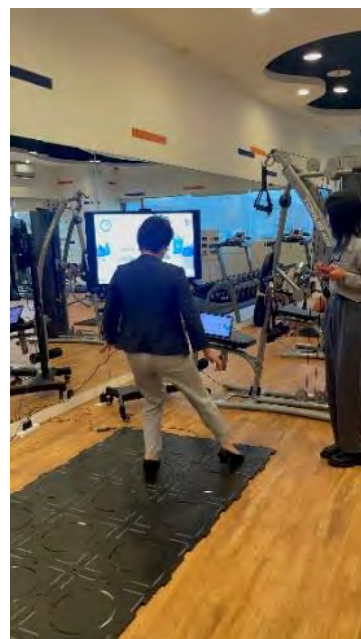
14階では、フィットネスセンターがあり、スマートフィットネスソリューションを活用したエクササイズが体験でき、利用者はテスト対象者である。



Living Lab +では、ユーザー中心の実証実験が推進され、製品とサービスをテストし、改善してゆくことが可能であり、そのアドバイスも受けられる場となっている。

ベンチャー企業において、アドバイザーマッチングが大変重要であり、ビジネスの成長をサポートするには、特定のニーズに合わせたコンサルティングが必要であり、それが Living Lab +であるのだと理解できた。

浜松市においては、「デジタルファースト宣言」により、デジタル・スマートシティによる都市の最適化を目指し、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォームが設立されたが、スタートアップ推進施策ともさらに連携し、FUSE などとともにスピード感を持った具体的なベンチャー企業の支援が必要であると感じた。



■日 時■ 2023年8月24日(木) 9:00~10:30

■視察先■ 新光三越百貨店 總公司商品部餐飲和食品 林倩瑜さん 經理 岸純一郎さん

### 【目的】

本市の農林水産品の海外販路拡大事業において、対象国の台湾の流通の現状を確認し、これまでの成果と課題、コロナ禍における状況の変化や輸出規制の最新情報を調査し、今後の本市産品の取り扱いや商談ルートの拡大に対する戦略計画について研究を行う。

### 【概要】

#### 1 海外販路拡大事業の沿革

・総合計画第1次推進プラン分野別計画搭載「農林水産業の6次産業化を進め、国内はもとより輸出販売に向けた戦略的経営を支援する」の推進体制として、平成26年度、ジェトロ浜松事務所開所を契機に「農林水産物・食品輸出促進委員会」を設立。台湾、香港、マレーシア、シンガポール等を対象に、海外食品見本市出展支援、テストマーケティング支援、プロモーション(浜松フェア in ○○)、セミナー、バイヤー招聘・マッチング、販路開拓のための市場調査を実施している。

#### 2 台湾事業の状況

- ・H27~31 台中「裕毛屋」でのプロモーション ※H28に鈴木市長がトップセールス
- ・H30~31 フードタイペイ出展 ※H29に視察
- ・R2~台中の裕毛屋の営業状態の変化(コロナ禍一時閉店→再開、新規出店計画の中止)  
フードタイペイ(ジャパンパビリオン)への出展ニーズの減少により中断
- ・輸出規制 輸出不可…トマト、植物検疫証明書不要で可…緑茶(製茶)、コメ。その他の多くは、植物検疫証明書を添付すれば可

#### 3 これまでの実績

・裕毛屋を展開する(株)裕源は、国内(厚木市)に拠点を持っていることから、試行期の事業者に対してテストマーケティングの機会を提供することができた。三立製菓(株)(裕毛屋ほか)、うなぎいも協同組合(沖縄県物産公社→商田實業有限公司→三越ほか)など、一部の事業者は商流を確立できた。



## 【調査】

新光三越百貨店はコロナ禍で海外に行けない富裕層が来客したこともあり、コロナ禍にあってもラグジュアリーブランドの売上げが全体の約 17%と好調であった。また、台北市内に建設中で 2023 年 11 月にグランドオープンを迎えるダイヤモンドタワーという高級マンションの 1 階~4 階まで三越が出店することになっている。他にも日本から三井不動産のららぽーとなど、新しい商業施設が出店している。

台湾のお客様は、日本のクオリティや製品に対する関心が高く他の国のものと比べると 1 ランク上と感じている人が多い。

日本の食材に関する輸入に当たっての規制に関しては、日本では細かく成分表示されていない物を明確にするなど、成分表示義務の違いがある。例えばトランス脂肪酸などの含有量においても制限が日本の基準よりも厳しく指定されている。

日本の人気ブランドの野菜や果物に関する情報はインターネットでよく知られていて、桃やシャインマスカットなどの日本産フルーツは人気が高い。

台湾の人たちは家で料理を作って食事をするという人があまりなく、外食に頼る人がほとんどなので百貨店ではフードコートの充実を図っている。

## 【所感】

台湾における日本ブランド、食材の品質など、人気は相変わらず高いが、販路拡大にあたって、最初の障壁は安全基準となっている。食材の輸入に当たっての規制に関しては、最も厳しい成分表示義務を課している国に合わせた成分調査をし、表示することによって、生産者と消費者との信頼関係が生まれると考える。

台湾でも、インターネットやマスメディアを通じて日本で話題や人気となっている商材、食材の情報はタイムリーに把握しており、日本で人気ができることが流通販路を拡大する一番の近道であるようだ。また、台湾の気候風土では作れない食材が売れる傾向があるようなので、浜松と気候風土の違う国への食材の販路の開拓を進めるべきである。

一方、高級店や一般流通ではなく、地方自治体や個別バイヤーを通じた相対取引での販路の実績があり、自治体間での特産品の相互流通や、給食での活用などによる販売量の確保など、研究の余地は充分あると考える。



■浜名湖・日月潭友好交流会■ 17:00～ 日月潭 大来亭(ホテル デルラゴ)



- 1 主催者挨拶 浜松市長 中野祐介
- 2 来賓挨拶 南投县政府観光処長 陳志賢
- 3 乾杯 浜松市議会議長 戸田 誠
- 4 両都市紹介 浜松市プレゼンおよび南投県プレゼン
- 5 閉会挨拶 浜松市産業部観光・ブランド振興担当部長 齊田 一朗

日月潭参加者

	所属	役職	氏名
1	南投县政府観光處	處長	陳志賢
2	南投县政府観光處	科員	孫以珊
3	南投县政府観光處	約僱	劉益宏
4	交通部觀光局日月潭國家風景區管理處	處長	簡慶發
5	交通部觀光局日月潭國家風景區管理處	副處長	廖錫標
6	交通部觀光局日月潭國家風景區管理處	課長	賴嵩鈺
7	南投縣觀光産業聯盟協會	理事長	魏振宇
8	南投縣渡船遊艇商業同業公會	理事長	王英生
9	台灣民宿協會	理事長	彭成裕
10	九族文化村(纜車)	經理	黃瑞奇
11	南投縣旅館商業同業公會	理事長	李吉田
12	中華民國民宿協會全國聯合會	總會長	張心盈
13	南投縣觀光産業聯盟協會	輔導理事長	林志穎
14	南投縣北港溪溫泉觀光發展協會	理事長	李浩璋
15	南投縣觀光工廠協會	理事長	翁啟富
16	南投縣清境觀光協會	理事長	張宏毅
17	南投縣太極美地發展協會	理事長	劉營霖
18	南投縣遊覽車客運商業同業公會	理事長	潘士宏
19	日月潭觀光旅游協會	理事長	鄭人維
20	日月潭觀光旅游協會	名譽理事	唐玉霞
21	日月潭觀光旅游協會	常務理事	林茗璋

浜松市参加者

	所属	役職	氏名
1	浜松市	市長	中野 祐介
2	浜松市議会	議長	戸田 誠
3	浜松市産業部	観光・ブランド振興担当部長	齊田 一郎
4	浜松市産業部観光CP課	海外戦略担当課長	影山 元紀
5	浜松市産業部観光CP課	主任	今津 宏樹
6	浜松市市議会	議員	柳川 樹一郎
7	浜松市市議会	議員	渥美 誠
8	浜松市市議会	議員	花井 和夫
9	浜松市市議会	議員	鳥井 徳孝
10	浜松市市議会	議員	加茂 俊武
11	浜松市市議会	議員	稲葉 大輔
12	浜松市市議会	議員	井田 博康
13	浜松市市議会	議員	露木 里江子
14	浜松市市議会	議員	神間 郁子
15	浜松市市議会	議員	藤田 典良
16	浜松市市議会	議員	鈴木 裕之
17	浜松市市議会	議員	小野田 康弘
18	(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューロー	誘客推進マネージャー	鈴木 康久
19	天竜浜名湖鉄道株式会社	代表取締役社長	松井 宜正
20	天竜浜名湖鉄道株式会社	営業部長	高木 信哉
21	浜松市	通訳	モンティン
22	浜松市	通訳	李 玉梅
23	浜松市	通訳	
24	浜松市議会	通訳	宗 子明
25	浜松市議会	添乗員	杉村 泰樹
26	天竜浜名湖鉄道株式会社	通訳	

■日時■ 2023年8月25日(木) 9:00~10:30

■視察先■ 日月潭・国家風景区管理处(向山ビジターセンター)

<https://www.sunmoonlake.gov.tw/ja/attractions/detail/243>

## 【目的】

本市と観光交流包括協定を締結している日月潭。

コロナ禍という事態に直面して、コロナ禍前とコロナ禍中、コロナ禍後の観光戦略と実態について調査し、交流協定における今後の在り方や、観光振興計画を学ぶ。

## 【概要】

協定名称	浜名湖と日月潭の友好交流に関する協定											
締結日	平成28(2016)年8月28日											
締結場所	日月潭(雲品ホテル(南投県魚池郷日月潭))											
調印者	<p>浜名湖観光圏整備推進協議会会長:鈴木康友浜松市長、          南投県観光産業連盟協会理事長:李吉田(一)          ※川勝平太静岡県知事、林明溱県南投県知事、交通部観光局日月潭国家風景区管理处 処          長 張振乾が立会人として出席した。          ※包括協定としての上記のほか、以下の組み合わせで個別協定も締結された。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">日本側</th> <th style="text-align: center;">台湾側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(公財)浜松観光コンベンションビューロ -</td> <td>日月潭観光旅游協会</td> </tr> <tr> <td>浜名湖遊覧船株式会社</td> <td>南投県渡船・遊覧船協会</td> </tr> <tr> <td>天竜浜名湖鉄道(株)※</td> <td>台湾鉄路管理局(集集線)※</td> </tr> <tr> <td>遠鉄観光開発(株)<sup>*</sup>(ロープウェイ・遊 園地)</td> <td>日月潭ロープウェイ(株)(九族文化 村ほか)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※天浜線・集集線の協定は8月27日に締結</p>		日本側	台湾側	(公財)浜松観光コンベンションビューロ -	日月潭観光旅游協会	浜名湖遊覧船株式会社	南投県渡船・遊覧船協会	天竜浜名湖鉄道(株)※	台湾鉄路管理局(集集線)※	遠鉄観光開発(株) <sup>*</sup> (ロープウェイ・遊 園地)	日月潭ロープウェイ(株)(九族文化 村ほか)
日本側	台湾側											
(公財)浜松観光コンベンションビューロ -	日月潭観光旅游協会											
浜名湖遊覧船株式会社	南投県渡船・遊覧船協会											
天竜浜名湖鉄道(株)※	台湾鉄路管理局(集集線)※											
遠鉄観光開発(株) <sup>*</sup> (ロープウェイ・遊 園地)	日月潭ロープウェイ(株)(九族文化 村ほか)											
協定主旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜名湖と日月潭の友好交流の推進により、湖の資源を最大限に活かし、観光地としての魅力の一層の向上を図る。</li> <li>・相互に湖の魅力や観光情報を発信し、双方の情報発信力の強化に努める。</li> <li>・両地域の事業やイベントへの参加に努めるとともに、両地域におけるプロモーション活動等に相互協力する。</li> <li>・湖の魅力を活かしたサイクリングや遊覧船、ロープウェイ等の個別分野の連携や観光機構、観光団体等の民間交流を促進する。・湖の魅力を活かした誘客や地域活性化の取組等について共有し、各地域の魅力向上や交流人口の拡大を目指す。</li> </ul>											
締結理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日月潭は台湾最大とも言われる観光地であり、ロープウェイや遊覧船、ローカル鉄道などもあり、浜名湖と状況が近似している。</li> <li>・サイクリングのみならず、観光分野全般の交流を推進し、浜名湖を発信する機会と捉えられる。</li> </ul>											

交流事業 (締結後)	平成 28 年 10/8	台湾交通部観光局長が来浜し、天浜線、遊覧船、ロープウェイ視察。
	11/12-13	日月潭のサイクリングイベントに「浜松・浜名湖」のブース出展(企画旅行のサイクリング参加訪問団同行)。 湖サミット開催に向けた南投県との調整。
	12/16 (その他民間)	・天浜線、集集線いずれかの使用済乗車券(2016.8.27-2017.12.31 間のもの)を相手側窓口に持参すると、1日乗車券を無償提供。 ・訪台時に受領した記念品と日月潭の写真をロープウェイチケット売り場に展示。
	平成 29 年 10/27	サイクルイベント、湖サミットについて南投県政府にて打ち合わせ。 日月潭サイクリングイベントへ出展し、浜名湖サイクリングの PR を実施。
	11/12	浜名湖、西湖、日月潭関係者による、湖サミット開催。 ・台湾鉄道管理局主催の「台湾美食展(駅弁イベント)」(7/23, 24)に天浜線が出展し、鰻弁当を PR。
	12/6-8 (その他民間)	
	平成 30 年 8/23	長田副市長が日月潭を訪問、南投県政府関係者等と意見交換。
	11/17, 18	サイクリングイベント「日月潭 Come Bike day! 」へ出展し、
	令和元年 11/3	浜名湖サイクリングの PR を実施。
	令和 3 年 11/13	令和3年および4年は現地 REP 対応により、同上サイクリングイベントへ出展
	令和 4 年 11/12	し、浜名湖サイクリングの PR を実施。
	令和 4 年 12/12	南投県政府、日月潭観光旅遊協会を訪問、アフターコロナにおける交流事業継続を確認する。
	令和 5 年 2/3	南投県長 許淑華氏に就任祝いの親書送付
	5/26	南投県長に、中野浜松市長着任挨拶の親書送付
	6/29	南投県政府、日月潭観光旅遊協会を訪問、市長の訪台について調整。

## 【調査内容要旨】

- ・日月潭は昔からハネムーンのメッカとなっており、多くの若者が写真撮影に訪れる。
- ・紅茶、林業、陶芸、盆地の地形により気候や水源に恵まれ、野菜や花の栽培が盛ん。
- ・海拔は約 750m。山々に囲まれた優美な風景が広がり、日月潭は拉魯島(ialu、サオ族の祖霊の地)を境に、東西両側が「日輪」と「三日月」の形に似ていることから、「日月」の名が生まれた。水資源が豊富なことから、水力発電の地となり、生態系の重要拠点でもある。昨今、外来種のタイガーフィッシュが在来種を食べてしまい生態系が破壊されつつあり、地元の懸念点となっている。なお、日月潭で魚の養殖はやっていない。
- ・台湾には 16 部族が存在し、そのうちの 1 部族がサオ族。言い伝えでは、原住民サオ族の祖先は阿里山に住んでいたが一頭の白鹿を追って日月潭を発見し、当地に移住。清朝になってから漢民族などが開墾した。
- ・センターの建築設計は、直線で作った方が建築しやすいが、曲線を主に採用し、日月潭の木材を木型とし、木目を残す施しがされており、建築デザインとしても魅力的なものとなっている。
- ・ビジターセンターには、日月潭周辺の集集、陶芸、木工、紅茶その他農産物を展示。併設されているギャラリーには、季節ごとに異なるテーマで展示会を開催している。また、3D 立体映像および HD ブルーレイ高画質により当地の魅力を感じられるようにしている。

- ・日本統治時代(1931年)に日本が日月潭に水力発電を作った。当時、日月潭第一発電所(現大観発電所)は、10万キロワットの発電量を誇る東洋一の水力発電所として台湾全島に電力を供給した。この巨大大事業に取り組んだ日本人が「台湾電力の父」と今も台湾人から尊称されている松木幹一郎。
- ・他方、水力発電建設によって日月潭の水位が上昇し、原住民であるサオ族の聖地として崇められている日月潭湖上にあるラル島が水没。不幸にも、1999年9月に発生したMw7.6の台中地震により更に水位が上昇・水没し、ラル島は現在の島を形作った。



### 【所感】

日月潭・国家風景区管理处(以下、ビジターセンター)は、日月潭を訪れた方がまず訪れると言っても過言ではない施設だった。日月潭の歴史的背景から現在に至るまで多くのことがここで情報収集することが可能だ。

到着後、まず見せていただいたのは日月潭の四季折々の風景や見所を詰め込んだプロジェクター映像だった。日月潭に溶け込んだような流麗な形をした施設だけでもかなりのコストが掛かっていることが容易に想像できたが、冒頭の映像もかなりのお金が掛かっているのがよく分かった。

ビジターセンターは、日月潭を抱くようなイメージで、周辺の風景に溶け込んでいる姿が印象的だ。建物は二つの棟で構成され、屋上から日月潭が一望することが可能。建物の内外に巧みに配された水と緑、そして打ちっぱなしのコンクリートがシンプルながら見事な対比を構成していた。

ビジターセンターには、年間10億円が国から拠出されており、ビジターセンターの運営費や観光施策に活用されているという。浜名湖の予算とは比較できないほどの差がある。また、全長約30kmの自転車周遊道路が綺麗に整備されており、湖を一周する楽しむことができる。年間800万人が訪れる日月潭のこうした観光施策を参考に、浜名湖の観光施策にも活かしていきたい。

ビジターセンターには、年間 10 億円が国から拠出されており、ビジターセンターの運営費や観光施策に活用されているという。浜名湖の予算とは比較できないほどの差がある。また、全長約 30km の自転車周遊道路が綺麗に整備されており、湖を一周する楽しむことができる。

しかしながら、コロナ禍前の数年間と比べて、日本人の観光客の来訪者数が減っているという。団体ツアーが減り個人旅行という形態の変化が、アクセスの不便な日月潭への誘客の阻害要因となっていると思われる。都心部の急速なデジタル化や、リノベーション、再開発事業、新規ホテルやショッピングモールの相次ぐ出店ラッシュに比べ、山間部に位置する日月潭の状況は、以前にもまして館山寺温泉や浜名湖の状況と似ている。

それでもなお、年間 800 万人が訪れる日月潭は、国政府、南投県の積極的な環境整備事業や、地元観光業界と連携した施策を企画しており、コロナ禍の収束となった今年以降の更なる投資や整備により、V字回復が期待される。

本市の観光振興政策も、官民連携による環境整備を積極的に行い、ターゲットを明確にして目的地、宿泊地として選ばれるような政策を提言していく必要がある。



## おわりに

コロナ禍により外出規制が長期化し、海外との往来も途絶えていた中ではあるが、訪れた台湾では、高層マンションや巨大商業施設の建設など発展を続けており、デジタル化の取組みによる先進的な社会構築が進んでいる。

その傍ら、2002年より推進されている文化創意産業「文創」計画により、官民連携した動きが活発化し、歴史建築物の再生やアート、デザイン、伝統技術など、歴史・文化を重んじる国民性、国家観を所々に感じるまちづくりがすすめられている。

日月潭では、「台湾紅茶の父」と呼ばれた新井耕吉郎氏を敬慕し、また、鳥三頭ダムをつくり、台南水道16000kmを巡らし、不毛の大地を台湾最大の緑地に変えた日本人土木技師八田與一（石川県出身）への没後80年の慰霊祭を、2022年5月8日、鳥三頭ダム付近にある墓で行うなど、表裏一体な取組みが連綿と息づいているなど、我が国との関係強化の基盤となっているなど、我々の歴史に対する知見、共有と相互理解の大切さを改めて痛感することとなった。

台北市政府への訪問では、蔣萬安新市長への期待の表れ、注目度の高さを感ずるメディア、議会議員の声を聞くことができたが、国内の他の自治体の動きはさらに活発で、大きな予算や連携事業をおこなっているなど、本市の取組みについては、さらなる強化と多角的な検討の必要性を認識した。一方で、コロナ禍から次のステージに向かったの足掛かりとして、新たな市長同士の友好関係の構築は効果的であり、新たな取組みとしての機会としての2024年の浜名湖花博は大きなチャンスともいえる。

台湾での一大イベントでもあるランタンフェスティバルへの出展への意向も示し、9月議会の補正予算の議決により、取組みが具体的に始まるが、これに留まらず、継続的かつ拡大して台湾との交流事業を重ねていくことが肝心である。

南投県においては、5年前の友好交流包括協定の締結以来、多くの関係者の皆様と再会することができ、互いの状況報告や課題の認識、次年度以降の相互交流にむけた提案など有意義な交流の機会となった。2024年の浜名湖花博開催期間には、ぜひ多くの関係者のみなさまの来場、浜松市への訪問を歓迎したい。

今回、新たに締結した浜松市と台北市の友好交流協定においては、青少年の音楽、スポーツ、教育などの交流機会の提供や、一般企業、経済団体等の産業交流の促進が盛り込まれ、観光分野のみならず、多角的な交流と協力が約束された。この協定を種として、具体的な果実を实らせるためにも、関係のみなさまのアイデア創発とともに、議会として積極的な政策の提言、予算の要望を行っていくことが求められている。

台湾がおかれている中国との状況に対して、「独立」「統一」「現状維持」というそれぞれの観点において、日本やアメリカだけでなく、側面的にバランスをとってきた中南米諸国の外交関係や、昨今のロシア、イスラム諸国の軍事情勢は、その緊張を高めるような動きが続いているといえる。この中において、民間交流、地方自治体の外交成果が、平和と安全、友好連携の礎となることを信じて、それぞれの立場でできることを実行し、発信し続けることを約束するためにも、今後の相互交流を継続していくことを後世に引き継いでいく必要がある。

最後に、今回の訪問において、準備、調査、視察にご協力いただいた皆様、台北市長や議長、南投県政府や観光産業連盟協会の皆様など、ご歓待いただいた多くの台湾の皆様へ感謝いたします。

幹事長 稲葉 大輔

